

平成29年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (京都市立伏見住吉幼稚園)

1 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実 ・発達や学びの連続性を意識し、安心・安定して主体的に遊ぶための環境構成や援助の在り方を考える。 ・「思考力の芽生え」と思われるエピソードを集積し、発達の過程を探り、小学校へとつなげる。	
(取組結果を検証する) 各種指標 ・幼児の遊び姿の変容・週案の反省、評価の記述・エピソード検討 ・アンケート項目「楽しんで幼稚園に通っていますか」「幼稚園の環境は子どもの豊かな経験ができるように整えられていますか」	
各種指標結果 (1回目) ・子どもの遊ぶ姿の中に、変容が見られた。特にどの学年も幼稚園が安心・安定できる場となっていた。 ・アンケート結果「楽しんで」100% 「豊かな経験」100%	
自己評価	分析 (成果と課題) ・今年度の園内研究に「思考力の芽生え」をテーマにし、教師がテーマを意識して取り組むことで、子どもの姿を見る時に焦点をあてた捉え方ができるようになってきた。このことは教師の資質を上げることになった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・各保育室の改善は見られたが全体で使う園庭等の環境構成において課題が見られた。今後計画性をもって進めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・昨年、研究報告会に参加させてもらって、幼稚園のこと小学校のことがよくわかった。今年もいろいろなことで、幼稚園に来させてもらって一緒に子どものことを考えたい。
評価日 平成29年8月23日 評価者 学校評議員会	
各種指標結果 (2回目) ・幼児の遊び姿の変容・週案の反省、評価の記述・エピソード検討 ・アンケート項目「楽しんで幼稚園に通っていますか」「幼稚園の環境は子どもの豊かな経験ができるように整えられていますか」	
自己評価	分析 (成果と課題) ・今年度の園内研究に「思考力の芽生え」をテーマにし、取り組んできた。エピソードの集積をし、分析をすることにより、発達の過程や環境構成の在り方などを検証することができた。このことは教師の資質向上につながった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・今後もこの研究を継続し、さらなる教師の資質向上に努めたい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	・今年度の12月に行われた研究報告会に参加させてもらった。子どもたちの遊びの中の育ちを直接見る事ができた。5歳児が少し危険であると思われる金槌を使い木工をしていた。危険であるので使用しない風潮になってきているが、きちんと使うことで、とても良い経験になることを、保護者の立場から幼稚園の取組として発信して欲しい。	
	評価日 平成30年3月7日	評価者 学校評議員会

2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点		
・幼小合同のキーワードで作成した接続期教育課程の検証 ・教師間交流（出前授業・定期的な話し合い・同一日公開授業と保育・合同研修会等）の取組の継続 ・幼児の「思考力の芽生え」の発信		
（取組結果を検証する）各種指標 ・公開保育・公開授業及び合同研究会の回数 ・研究会・研究発表会参加者の意見 ・アンケート項目「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられていますか」		
各種指標結果（1回目） ・研修会は計画通り進めることができたが、子ども同士の交流が計画通りにはいかなかった。 ・接続期教育課程の4月からの小学校の部分を検証後、その結果を合同研修会で共有することができた。 ・アンケート結果「地域との連携」94%		
自己評価	分析（成果と課題） ・子ども同士の交流は、他行事等の関係で計画通りいかなかったが、新たな取組として小学校が幼稚園の環境を使って授業するなど行うことができた。 ・接続期教育課程の共有がうまくいったのは、昨年までの研究の成果と考える。 ・保護者のアンケート結果は前年度よりよくなっている。幼小の取組が保護者にも伝わってきている。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・定例会を継続しようとしているが、できない時があるので、短時間でも行っていくようにする。 ・2学期からは1年生以外の学年とも交流があるので、子どもたちの姿をしっかりと見ていきたい。 ・発信するということを今後も続けていきたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	・地域の行事に携わっているが、初めて地域を歩いたり、地域が動いているということがわかったりという人がいた。発信していくことの大切さを感じる。 ・幼稚園を知ってもらう機会をつくることが大事。それがわかってもらうチャンスである。	
	評価日 平成29年8月23日	評価者 学校評議員会
各種指標結果（2回目） ・公開保育・公開授業及び合同研究会の回数 ・研究会・研究発表会参加者の意見		

・アンケート項目「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられていますか」		
自己評価	分析（成果と課題） ・研究報告会を12月に行い、多数の参加を得ることができ、取組の発信になり、参加者の意見は高評価であった。近隣の保育園や小学校の教師の参加も得られた。 ・研修会は計画通り進めることができたが、子ども同士の交流が計画通りにはいかなかった。今後は年間計画を決めていたが、後半になると行事が入ってきたり、天候によって計画を変えなければいけない活動などがあったりなど難しかった。内容の見直しも必要ではないかと思う。 ・アンケート結果「地域との連携」95%であった。今後も発信を継続していきたい。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・今年度の取組をカリキュラムマネジメントの視点から、検証をして継続していく。 ・保育園や住吉小学校以外の近隣の小学校への取組の発信を継続していきたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・小学校では、スタートカリキュラムを作成して滑らかな移行ができるように幼稚園と共に取り組んでいることは、大切なことだと思っている。 ・中学校でも温室育ちの子どもが増えてきているので、いろいろな人とかかわるという意味でチャレンジ体験はとてもよい経験になっている。	
	評価日 平成30年3月7日	評価者 学校評議員会

3 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む ・発達段階に応じた基本的な生活習慣の定着に向けた取組と保護者との連携・啓発 ・体を動かすことの気持ちよさが感じられるような環境構成と保育計画 心と体・生活習慣		
（取組結果を検証する）各種指標 ・アンケート項目 「生活習慣が身についてきていますか」「幼稚園生活を通して心身がたくましくなっていますか」 ・週案の中の「運動遊び」の取り入れ方及び反省、評価の記述。		
各種指標結果（1回目） ・アンケート結果「生活習慣」97%「心身がたくましくなっている」100% ・週案の中には、記載がある時とない時がある。		
自己評価	分析（成果と課題） ・生活習慣については保護者により、大人の都合で子どもがやろうとしたことが待てないなど価値観や評価のしかたが違うこともある。 ・週案の中に生活習慣についてや体を動かす活動について定期的に記載していけていない。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・子どもの意欲にそぐわない大人のかかわりについて、個々の保護者に啓発。 ・生活習慣についてや体を動かす活動について週案の中に明確化していく。	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どもが少なくなつて目が行き届きすぎたり，よく見えたりして手をかけすぎているのではないか。家庭と共に育てることもあるので，園から声をかけ，親への教育をしてほしい。	
	評価日 平成 29 年 8 月 23 日	評価者 学校評議員会
各種指標結果（2 回目） ・アンケート結果「生活習慣」 98% 「心身がたくましくなつてきている」 98% ・週案の中には，記載がある時とない時がある。		
自己評価	分析（成果と課題） ・アンケート結果「生活習慣」 97% 「心身がたくましくなつてきている」 100% ・前期同様，週案の中には記載がある時とない時があるが，運動会の時期には記載が多くされていた。幼児期の特性でもある年間を通しての長いスパンでの願いを，考慮して記載していくことで 1 年間の願いや育ちが明確になっていくと考える。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・生活習慣において家庭と幼稚園が同じ思いで育てていくことが子どもの育ちにつながることを，保護者にしっかり啓発していけるような教師の力量をつけていきたい。 ・幼児期の特性でもある個人差を考慮して記載していくことで 1 年間の願いや育ちが明確になっていくと考える。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・家庭での遊びがゲーム中心になり，幼稚園児でもゲームの影響を受けている子どもがいると聞く。家庭での父と母の考え方が違ったりすることもあるので，家庭で話し合っていかなければいけないことだと思う。	
	評価日 平成 30 年 3 月 7 日	評価者 学校評議員会

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する 信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え		
・教師との信頼関係の確立 ・友達との人間関係づくり ・公共心の芽生えが育まれる取組		
（取組結果を検証する）各種指標 アンケート項目 「周りの人に親しみをもって挨拶をしていますか」 「教職員は子ども一人一人にあたたかいかわりをしていますか」		
各種指標結果（1 回目） アンケート結果「周りの人に親しみをもって挨拶」 92% 「教職員のあたたかいかわり」 100%		

自己評価	分析（成果と課題） ・発達や年齢に応じて挨拶の仕方も違う。形だけの挨拶を思い、できないことを保護者は心配しているが心配のないよう保護者啓発が必要。 ・教職員とは信頼関係がとれて子どもも保護者も安心して通っている。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・日々保護者に声をかける機会やクラス別懇談会等を活用し、幼児の発達の道筋を保護者に啓発していくことが必要と考える。 ・教職員の連携がとれていることを保護者がアンケートの自由記述欄にも書かれていた。引き続き連携していきたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・挨拶を定着させるには、大人がモデルにならないといけない。しかし、不審者等もいるので子どもにどう教えたらいいかを迷っているという保護者の声もある。	
	評価日 平成 29 年 8 月 23 日	評価者 学校評議員会
各種指標結果（2回目） アンケート結果「周りの人に親しみをもって挨拶」 89 % 「教職員のあたたかいかわり」 100 %		
自己評価	分析（成果と課題） ・前期同様、発達や年齢に応じて挨拶の仕方も違う。形だけの挨拶を思い、できないことを保護者は心配しているが心配のないようにとの保護者啓発が不足だった。 ・教職員のあたたかくかわっているという結果が特によかったことは、嬉しい結果であった。このことは子どもの育ちに大きくかわることであると考え。園の雰囲気もよいとの声もきかれた。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・挨拶等のかかわりは今後も繰り返し取り組んでいく。 ・今後も園全体で連携した温かい取組を継続していきたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・生活習慣を身につけるという中の挨拶は、幼稚園の時からずっと大人にまでつながっていくことである。人とかわるという意味においても挨拶は大切であると思うので、続けて取り組んでほしい。	
	評価日 平成 30 年 3 月 7 日	評価者 学校評議員会

園独自の項目
・預かり保育の充実 預かり保育の参加人数、保育者同士の連携、指導計画の作成・見直し ・子育て支援の推進 教育相談の取組の工夫、園庭開放の実施・充実 ・情報発信の充実

ホームページの更新，地域へのポスター配布		
（取組結果を検証する）各種指標 ・ 預かり保育の参加人数，保育記録の作成と活用 ・ 教育相談・園庭開放の参加人数， ・ ホームページのアクセス数と保護者の反応		
各種指標結果（１回目） ・ 参加人数は横ばい。長時間預かり保育は減少。子どもの姿を伝えあうなど担任との連携はできてきている。 ・ 教育相談の登録数は増加している。 ・ ホームページのアクセス数は増加。保護者からは高評価を得ている。		
自己評価	分析（成果と課題） ・ 預かり保育の発信の工夫が必要と感じる。預かり保育の内容の見直しを行う。 ・ 教育相談に来ている保護者が担当教員に，気軽に声をかける姿が見られる。 ・ ホームページをよく見ていると保護者の声をよく聞く。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・ 優先利用が少ない本園の預かり保育の現状を保護者に話し，利用拡大できるように理解を得る。 ・ 子育て支援の意味でも，担当教員がアドバイス等していけるように，園長との連携を密にしていく。 ・ 幼稚園教育の理解を得るためのホームページになるよう，内容を検証していく。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ 預かり保育と幼稚園弁当の取組が，園児獲得につながってほしい。そのために発信をもっと広げていくことが大事ではないか。 ・ 児童館との連携を進め，幼稚園を知ってもらうイベントを拡大していく協力をしたい。 ・ 保幼小連携が進めていけるように地域清掃の取組を保育園にも声をかけてみたい。 ・ 子どもたちの様子がよくわかるホームページを楽しみにしている。	
	評価日 平成 29 年 8 月 23 日	評価者 学校評議員会
各種指標結果（２回目） ・ 長時間・短時間とも参加人数は増加した。 ・ 子どもの姿を伝えあうなど担任と預かり保育担当者との連携はできている。 ・ 教育相談の登録数は増加している。 ・ ホームページのアクセス数は増加。保護者からは高評価を得ている。		
自己評価	分析（成果と課題） ・ 預かり保育の内容を変え，参加者の枠を広げたことにより，参加者が増加した。 ・ 教育相談に来ている保護者が担当教員に，気軽に声をかける姿が見られたり，温かい園の雰囲気を感じたりするという未就園児保護者の声が聞かれた。 ・ ホームページをよく見ていると保護者の声をよく聞く。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・ 長時間預かり保育の内容は，その年度の利用者によって考えていかなければならないが，常に工夫をしていく必要はある。見極めていくことが大切である。 ・ 温かい園の雰囲気を感じるという未就園児保護者の声が聞かれたことは，園児の増加につながったのではないかと考えるので，今後もこの雰囲気を保っていきたい。	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・幼稚園を選んでもらうためには、未就園児の親への幼稚園の取組の発信が大切であるので、PTAの方にもどんどん協力をしてもらったらいいのではないかなと思う。 ・PTAの方も協力していきたいと考えている。具体的方法を幼稚園と一緒に考えていきたい。	
	評価日 平成 30 年 3 月 7 日	評価者 学校評議員会